

## 広島弁の語アクセント

藤原与一

## ON THE ACCENT FORM OF HIROSHIMA DIALECT

Yoichi FUJIWARA

- 0 「旧広島市域での、土地っ子としうる人たちの——老若男女の——語アクセント所有の平均状況について考える。  
「観察者は私自身である。  
「昭和三年以来、今日までの、自然観察と意図観察との結果をふまえて、つぎに、広島弁の語アクセントの型式を述べる。

## I. 語アクセント型式

以下の整理は、私の早くからしていたものであり、それは、今日も不变である。  
「こういう整理を、土地っ子の知人たちも肯定する。  
「今回は、名詞についての発表である。

## 1. 一音節語名詞

「〇」（「日」など）  
「一」（「火」など）

二種が認められる。

## 2. 二音節語名詞

「〇〇」〈下中〉（「笛」など）  
「〇〇」〈下上〉（「山」など）  
「一〇」（「空」など）

## 3. 三音節語名詞

「〇〇〇」（「薬」など）  
「〇〇〇」（「頭」など）  
「〇〇〇」（同上）  
「〇〇〇」（「姿」など）  
「一〇〇」（「うしろ」など）

## 4. 四音節語名詞

「〇〇〇〇」（「こまいぬ」など）  
「〇〇〇〇」（「草刈り」など）  
「〇〇〇〇」（同上）

「〇〇〇〇」（「あまざけ」など）  
「〇〇〇〇」（同上）  
「〇〇〇〇」（「手ぶくろ」など）  
「一〇〇〇」（「あかちゃん」など）

## II. 諸注

a. 「〇〇〇」に対する「〇〇〇」、「〇〇〇〇」に対する「〇〇〇〇」、「〇〇〇〇〇」に対する「〇〇〇〇〇」は、土地っ子のくつろいだ気分の中のものである。もっとも、人によっては、あらたまでも、「〇〇〇」、「〇〇〇〇」、「〇〇〇〇〇」のはうしか発し得ない人もある、どちらかといえば、年長婦人にこのことが多い。

b. 「〇〇〇」、「〇〇〇〇」、「〇〇〇〇〇」のはうい、最初の音節の母音は長呼ぎみである。「カタナ」も [ka'tana] である。（最後音節の母音も単純短呼ではない。）

c. 近傍町村（坂町など）に、「カタチ」「アテマ」「ミチクサ」「アマザケ」のような語アクセントも認められるが、第一音節高音は、後生のみのと考えられる。[a'tama] の習慣の中で、人々が強調気分などの発音をした時、「〇〇〇〇」型式はおこりやすかったであろう。

（他地方の、たとえば隠岐の「〇〇〇〇」、「〇〇〇〇〇」などについても、第一音節高音の後生が考えられるか。神部宏泰氏にも、これに関する所見がある。それを、氏の近著『隠岐方言の研究』（風書房 昭和53年2月）のp. 559に見ることができる。）

d. 「〇〇〇〇〇」は、動詞にもわたって、広く認められる型式である。「アマザケ」「ソロエル」など、第二音節母音が広母音の時も、【19頁】

【16頁より】

狭母音の時と同様に、この型式ができている。(東京語だと、第二音節母音が [i] または [u] の時、「○○○…」である。)

e. 広島弁の「○○○○」のばあい、第二音節母音が狭母音のばあいは「○○○○」になる。「カミナリ」など。

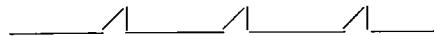
**III. 語アクセントと文抑揚（文アクセント）**

広島弁での代表的な文抑揚（文アクセント）傾向は、

○マガリマスカラ ゴ~~チ~~ューアイ ネガイマス。

曲がりますからご注意ねがいます。  
(バス車掌の言)

にあらわれているようなものである。



この傾向によく対応する語アクセント型式は、「○○○」「○○○○」「○○○○」などである。  
(53. 5. 16)